

木材利用の活動報告

森の見える家づくりについて

空知総合振興局 森林室森林整備課 服部 聡

取組の背景・目的

これまで食品分野においては、顔の見える野菜作りなどのトレーサビリティシステムが導入され、消費者に安心で安全な食品が提供されてきましたが、木材の分野においてもトレーサビリティシステムを導入し、安心で安全な顔（森）の見える木材での家づくりを実施しようという動きが広がってきました。

ところが道内ではこうした動きが本州ほど積極的に広がらず、一部工務店が独自に実施している程度でしたので、誰もが参加できる継続的な事業として実施することとしたものです。

取組の内容・成果

空知総合振興局森林室では、施主がマイホームの部材となる木が育った森を自らの目で確認し、それが伐採されて製材、プレカットされるまでの各過程を見学することができる「森の見える家づくり」事業を実施しています。

この事業では道有林空知管理区で産出するカラマツ無垢材を対象とし、地材地消及び流域的な視点から、伐採から製材、乾燥、プレカット（希望する場合）まで全ての工程を空知管内で終結させ、建築地を石狩空知管内に限定することとしています。カラマツ無垢材を上手に乾燥できる工場は限られていますが、幸い空知管内には高度な技術を有する乾燥工場があるため実現しました。

また産地を明確に表示するために木材トレーサビリティの実験も行います。これまでも産地証明制度は存在していましたが、林小班単位などのピンポイントで産地を絞ることはできませんでした。今回の実験では伐採現地で森林室職員がトレーサビリティ対象となる丸太に写真のような産地表示票を貼付し、製材、プレカット等の段階では他の材と混ざらないよう工場の協力を得ながらマーキングし、施主に責任をもって引き渡すことを目標としています。

さらにこの事業では、例えば柱や梁にしたい木を立木の段階から予約でき、自らが予約した木がどうやって柱や梁になっていくのか目で追うことができる試みも実施します。予約した木が造材、製材などの過程を経る都度別途印をつけるため、他の材と混ざることがありません。

平成22年度は岩見沢市内の54、57年生、平均胸高直径38cmのカラマツ約570m³を用意して7月から募集を開始しましたが、1月末時点で岩見沢市及び美唄市の住民から2件の申し込みがありました。平成23年度も引き続き事業を継続する予定です。

今後の展開

平成23年度もほぼ同程度同規模のカラマツを用意して現在施主の募集を行っています。トドマツや集成材での問合せもあるため、顧客のニーズに応じた展開を行っていくことを検討しています。

